

第5回 中部の地域づくり委員会 議事概要

1. 日 時

令和元年12月25日（水） 15:30～17:00

2. 場 所

名古屋合同庁舎第1号館 11階 共用大会議室

3. 出席委員

奥野信宏座長、内田俊宏委員、小川正樹委員、後藤澄江委員

4. 議 事

(1) 第4回委員会でのご意見の取扱いについて

（“ものづくり”対流拠点形成に向けた具体的な取り組みについて）

(2) “ものづくり”対流拠点形成に必要な機能、構造等について

(3) 今後の進め方（案）

上記について、事務局から説明。その後、意見交換を実施。

各委員から出た主な意見は以下のとおり。※意見は発言順で記載。

(1) 第4回委員会でのご意見の取扱いについて

(奥野座長)

- ・ アジア競技大会に関連して、まちづくりとして何を実行したかが評価される。名古屋競馬場跡地の整備には集中して取り組むべきである。

(内田委員)

- ・ p.10の知的対流拠点の事例に関連して、鶴舞に整備予定の「ステーションAi」が、2021年度中の開業を予定しているため、事例に加えておいてはどうか。
- ・ p.31の「移動の円滑性を高め交流促進」の部分で北陸圏とのアクセス性の向上について記載があるが、豊橋や静岡など新幹線駅のある地域についても、新幹線の停車回数が増えるため、新たな対流が生まれる可能性があることについて言及しておいてもよいかもしれない。
- ・ アジア競技大会選手村後利用については、スマートシティや学校、外国人の職業訓練所、スタートアップ企業と地元中小企業との連携など、商業施設以外にもまちづくりの計画が提案されている。確定事項ではないため、記載するのは難しいかもしれないが、そのような状況であることを記載してはどうか。

(奥野座長)

- ・ 新幹線は豊橋以東には迷惑をかけない形でシャトル便を豊橋、三河安城、名古屋間に出してもよいのでは。静岡に対しても何か記載できることがあればよいのだが。
- ・ 交通結節点について、星が丘テラスのように賑わいのある場所もあるが、全体的に名古屋圏は厚みがないと感じる。

(小川委員)

- ・ p. 35 の防災対策の推進について、官側だけでなく民間企業側もしっかりと取り組み、産官連携で進めることを加えて頂きたい。
- ・ p. 32 の次世代モビリティコンソーシアムのイメージについて、特区的な実験ができることを加えて頂きたい。

(奥野座長)

- ・ 民間企業の地域住民との関係性構築のためにも、民間企業による防災への投資や防災活動は重要である。

(内田委員)

- ・ p. 33 にスマートシティや静岡の Maas について記載があるが、愛知県内のスーパーシティ・スマートシティに関する取組や構想についても記載があってもよいのではないかと。

(後藤委員)

- ・ 住環境という点で、福祉施設や地域の人が集まる小規模な施設では十分な防災対策ができていない。各地域の拠点との間でネットワークを組み、防災対策を施すことが各地域の魅力づくりにつながる。
- ・ 当地域の公的な教育機関の質や環境が向上して他の地域よりも優れていることを記載できるとよい。
- ・ p. 39 の「外国人」の定義について、外国にルーツのある方なのか、新しく入ってこられる方なのか、この地域に既に居住されている方なのか、様々なとらえ方がある。書き込む必要はないが、この中でどう扱うのかを考えておく必要がある。クリエイティブクラスのような地域のものづくりを高度化する上で必要な人材と労働者として地域を支える人材の両面を意識するべきである。

(2) “ものづくり” 対流拠点形成に必要な機能、構造等について

(内田委員)

- ・ 資料 2 p. 2 の展開されるべき地域戦略 (1) ~ (3) については、ものづくりに対して有効な項目がまとめられている。特に、地域戦略 (2) 社会実装を高速で実現させる地域づくりについては、愛知県が提案するスーパーシティについて国のバックアップを受けつつ、実現して頂きたい項目である。
- ・ 資料 2 p. 3 の左側の図について、トヨタが被災時の代替港として敦賀港から利用する実験

を行っているため、実証実験のシナリオが残っているのであれば敦賀港も記載してはどうか。

(後藤委員)

- ・ フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーション環境の構築について、若い世代が重視しなくなっていることもあり、良さを知っている世代としてはフェイス・トゥ・フェイスの重要性をきちんと押さえていくべき。
- ・ 知的対流を起こすには、拠点整備だけでなく対話が重要である。何らかの課題やニーズをどう解決するか、複数人で集まっての対話が対流のきっかけになるという仕組みを作ることが重要である。産官だけでなく、民と官、民と産の関係も大事である。
- ・ 社会実装に取り組むには行政による適切な規制の強化と緩和が必要である。新しい時代を迎え、自動運転や先駆的なまちづくりに取り組むには、色々な場所で立場の違う人々が話し合う場を設けて、対話から対流を作っていくことがよりよい規制緩和や強化を導いていく。知的対流拠点が先駆的な事業を進めていく上での手段の一つになり得るという認識を持つべきである。

(小川委員)

- ・ 資料2 p.2 について、様々な方にヒアリングしながら課題を見つけてきたので、課題についてまとめて記載して頂くと、報告書を見る方の理解が深まるだろう。
- ・ 資料2 p.3 の左側図について、北極圏と中部圏が近畿圏を介して北陸新幹線で通じる構図になっており、北陸圏と中部圏の関係が遠く感じてしまう。バイパスのような線を引くことはできないか。
- ・ 資料3 p.4 のフェイス・トゥ・フェイスについて、対面で議論するための場が名古屋に乏しいことで、IT企業が東京に出てしまうという状況を入れて頂けるとよい。
- ・ 資料3 p.5 の6.2.2.の中で、特区によって社会実験が実施しやすい環境になることを記載頂けるとよい。
- ・ 資料3 p.8 の地域戦略をこれからどう実現していくかというところは大きなポイントである。これまでの広域地方計画は官が作ったという印象があるが、産学官で共通する議論ができる場を作っていくというイメージを作って頂けるとよい。
- ・ スタートアップ・エコシステムのモデル都市について、名古屋は出遅れているが、名古屋大学、愛知県、名古屋市、中経連で体制を組んで取り組み、選定された際は名古屋以外の周辺地域にも広げていきたい。

(奥野座長)

- ・ 小川委員と同じことであるが、足下でどういうことになるかが記述されていると、読んだ人の理解が深まるのではないか。
- ・ 資料3 p.4 のフェイス・トゥ・フェイスは、リニアが開通しても名古屋には東京などに比べると集まる場所がないことが課題になる。
- ・ 資料3 p.2 の防災・減災について、東京に機能が集中しすぎている。東京の役割は引き続き

き大事であるが、仮に首都直下地震のような大規模災害でない場合であっても自然災害のリスクが大きくなり過ぎる。中央省庁においても多数の災害時のアクションプランがあるが、足元の議論ができていない感じがする。

- ・ 中部圏で知的対流拠点形成するためには、社会科学や人文科学、芸術学部のような創造的な学問が重要であり、必ずしも理科系科目だけで人が集積するものではない。AIについても理科系のアプローチだけではない。
- ・ 資料2 p.3の左側図について、将来のためにも北陸の左端のほうから名古屋地区に一本、中京新幹線を意識した線を入れておいても良いのではないかと思う。

(事務局より森川委員の意見を報告)

- ・ 対流拠点形成に必要な3つの機能、構造そして地域戦略については了解。
- ・ オープンでグローバルな対流促進機能の戦略として、やはりMICEがフェイス・トゥ・フェイスの場として有効である。MICEの会場、グレードの高い宿泊施設等も当然重要であるが、そこへのアクセス性を向上させることも必要である。
- ・ 具体的には、名古屋市、愛知県などで取り組んでいる国際展示場などについても鉄道や道路を活かして更にアクセス性の向上が必要ではないか。

(後藤委員)

- ・ アクセス性について、現状は中部圏という広い範囲を扱っているが、目玉になっていくようなモノを書き込んで、民間投資や人々の関心を集められるような、居住地域としても、訪れる人にとっても魅力的な地域づくりをどうやって進めていくか、課題は何か記載があるとより具体的である。

(事務局)

- ・ 個別具体のことは記載がないが、p.8で圏域ごとに具体でどこの地域をどう活性化していくのか、各地域で検討体制を整える必要があると考えており、体制が重要だという提案に留めている。

(内田委員)

- ・ 展開されるべき地域戦略の方向性は妥当だが、スタートアップ・エコシステム拠点都市がもし東京・大阪・福岡ということになると、(2)社会実験を高速で実現させる地域においては、スーパーシティの特区に選定されることが将来的に規制緩和や国の支援の対象になり得る。次世代製造業の競争性を保つために、スーパーシティという文言まで入れるかは微妙だが、スタートアップ・エコシステムの拠点都市に近い状況をつくらないと、中部圏域内の対流を作ることができないと危惧している。

(小川委員)

- ・ ものづくり対流拠点とはどのようなイメージであるのか改めて整理する必要がある。トヨタやデンソーのような大企業でなく中堅クラスやそれ以下の企業が新しいものづくりを

考えようじゃないかということを目指していくべきではないか。必ずしもモノをつくる場所は日本だけでないとしてもコトをどう創っていくかの議論ができる対流拠点として、この地域だけでなく世界全体から住みやすいまちであることを明確にしておくべきでは。

(中部地方整備局長)

- ・ ものづくり対流拠点の定義を明確にしなければならないと感じている。大きな方向性で様々なご意見を頂いたが、地域戦略を実現するために、次につながるまとめ方をしていきたい。

(3) 今後の進め方(案)

- ・ 意見なし

(以上)